

### 校長室から応援メッセージ③

令和3年7月9日（金）

「自分の限界は自分にもわからない」（『中庸』『論語』）

皆さん、こんにちは。本日で前期授業が終わります。何年か前、ある大手通信教育の会社（Z会）が新聞に大きく出した広告に「『明日からやろう』と40回言うと夏休みは終わります」という言葉が載っていました。うまいことを言うと思いきや、受験生の痛いところをついていて何だかなあ、と感じた記憶があります。

明日からやろうと先送りするのは、勉強というものをこなすべきノルマと捉えているからです。現実にはノルマとして取り組むことも必要ですが、今日できなかったら明日は二倍、明日もできなかったら明後日は三倍、とキリがありません。

受験勉強は、皆さんが大学で学ぶのに必要な基礎を身に付ける、そのためのものです。大学では自分の知っていること、できることの限界を広げていく粘り強い姿勢が求められます。そのことを意識して努力する過程こそが受験勉強の本当の姿であるべきです。毎日机に向かってする勉強は、今の自分の限界を乗り越え、自分の世界を広げていこうとする、静かではありますが、大いなる挑戦です。

中国儒教で四書といわれる『大学』『中庸』『論語』『孟子』ですが、『中庸』の冒頭に「天の命じる、これを性という」とあります。性とはその人の性格とか能力で、これは天命である。自分の能力が天から与えられたものならば、私たちはありのままに生きるしかなく、あくせく努力するのは無駄なのではないでしょうか。そうではありません。ありのままとは今の自分のままということではなく、今の自分が本来の自分であるのか考えなさい、ということをお勧めしています。

一方、『論語』の中で孔子は、自分の力に自信を持ってない弟子に向かって次のように言います。「汝は今、画（かぎ）れり」。画るは、限界の限、限界付けるということです。お前は今、自分で自分の限界を決めている、どうしてその限界を越えようとしないのだ、と孔子は言っているのです。限界を越えようとする自分こそが、本来の自分、ありのままの自分ということだと私は解釈しています。

私には休み明けに次のように呟く皆さんが見えます。「『今日はやった』と40回言ったら夏休みが終わってしまった」。今日はやった、と言い続けるためには、気がついたらやっちゃってしまっていたという感覚が必要です。まず机に向かいます。その上で自分を忘れるのです。勉強するのは自分ですが、自分が勉強するというより、自分の方が勉強に巻き込まれるのです。自分を意識しすぎると、自分の学力はこれくらいと、すぐ自分を限界付け、実際の行動にさっと移れなくなります。

毎日無心に机に向かい続け、教室のあちこちで、あるいは自宅のどこかで「今日もやってるぞ!」と雄叫びをあげている、そんな皆さんの姿を勝手に想像しながら、しかし、「今日もやってるぞ!」とは自分を意識しすぎだなあ、などとこれも勝手に心配しながら、私は校長室から静かに応援したいと思っています。